

2019年度 ARCT事業計画書①

今年度の ARCT は、東日本大震災を契機に立ち上がった団体としての役割を見つめ直し、「本当に必要な人々に届く活動」であるためにはどのように歩みを進めるべきか、考えていきたいと思えます。東日本大震災から 10 年を迎える 2021 年を見据え、被災地支援の在り方や、2022 年以降の活動について時間をかけて議論を深めていきます。また 2018 年度よりスタートしている「The First Action Project」「出前プログラム研究会」「セクハラ講習会」などの、地域の未来につながる活動にはより一層の注力をし、宮城での芸術活動におけるプラットフォームとしての存在感を確立していくとともに、個々人の知識やスキルの向上を目指します。

活動テーマ「本当に必要な人々に届く活動とは」

□「ネットワーク」・・・事業全体バランスを考慮し、次年度の計画のためお休み

□「アウトリーチ」・・・アウトリーチ活動の専門性とスキルを深める（二年目）

- ・アウトリーチの次世代の担い手育成。
- ・受託事業の安定した実施環境整備と、アーティストとの関係強化。
- ・子供達へ向けた芸術体験事業の意義や価値の普及・啓蒙活動。
- ・東北・宮城でのアウトリーチ活動の継続性を保つ自力を養う。

□「パートナーシップ」・・・災間社会における役割を考え、その役割をつとめる

- ・東日本大震災の知見を、未来に起きるであろう災害への対策に生かしていく。
- ・被災地団体ネットワークを作り「必要な人が、必要な時に、必要な情報を取れる」仕込み作りを推進させる

□「アーカイブ」・・・ARCT の活動記録・知的財産の整理、管理、普及

- ・ARC>T 本の広報・配布
- ・第二期 ARCT の活動記録を整理。

その他・・・組織運営の見直しや、ハラスメント対応などの組織基盤強化

- ・セクハラ講習会を継続実施していく。レクチャーのみならずディスカッションの場を設け、ここの意識を高める活動を行う。
- ・事務局の運営体制強化、継続可能なスケジュール、経営、体制の基盤を模索する